

2024 年度日本認知・行動療法学会 SIG 活動報告書

1. 日本認知・行動療法学会 SIG 名 (周産期メンタルヘルス SIG)
2. 記入者 (土井 理美)
3. 一年間の活動実施報告 (各企画の日付、SIG の参加者、実施した活動の内容や成果、業績などについて報告してください。なお、SIG で開かれる活動において、年会費や参加費などで収入が発生した場合、収支報告 (様式任意) を別途提出してください。)

	活動内容、成果、業績等
4 月 5 日	今後の方向性や学会シンポジウムについて、主要メンバー (松永先生、横山先生) と打ち合わせ
5 月 31 日	今後の方向性や学会シンポジウムについて、主要メンバー (松永先生、横山先生) と打ち合わせ
7 月 2 日	研究費申請に関する打ち合わせ
8 月 6 日	研究費申請に関する打ち合わせ
9 月	研究費申請 (結果: 不採択)
9 月 23 日	日本認知・行動療法学会 にて SIG ミーティング (30 名近く参加) 日本認知・行動療法学会自主企画シンポジウム (メンバー 6 名で登壇) メンバー: 土井、松永先生、横山先生、郷先生、柴田先生、兒玉先生)
10 月 16 日	今後の方向性をシンポジウム登壇者 6 名で打ち合わせ
10 月 26 日	周産期メンタルヘルス学会にてランチミーティング (5 名参加)
1 月	プロジェクト 1 (周産期で活躍できる心理士育成のための研修プログラムの開発) とプロジェクト 2 (1-dayCBT の効果検証) の参加募集 プロジェクト 1 のメンバーは 16 名 プロジェクト 2 のメンバーは 11 名
2 月 18 日	研究費に関するミーティング
2 月	研究費申請 (結果: 不採択)
3 月 3 日	プロジェクト 1 第 1 回キックオフミーティング (11 名参加)
3 月 5 日	プロジェクト 2 第 1 回キックオフミーティング (10 名参加)
3 月 24 日	プロジェクト 1 第 2 回ミーティング (11 名参加)

4. 次年度の活動予定

プロジェクト1では、プロジェクトメンバーで周産期における心理士の役割を明確化し、その役割に必要なスキルを洗い出す。第51回日本認知・行動療学会の自主企画シンポジウムにて、周産期における心理士に期待される役割について多職種（心理士、助産師、精神科医）で検討する。周産期における心理士の役割と必要なスキルを明確にした上で、育成プログラムの作成に着手する。

プロジェクト2では、1-dayCBTの効果検証を行うために研究費を継続して申請する。実証フィールドとして、医療機関や自治体を開拓し、次年度は1～2つの医療機関または自治体で実証を行うことを目指す。また、1-dayCBTのプログラムコンテンツの改善を図る。